

銀 賞

きれいな水を守るために

玉置 佳子

中間市立 中間東小学校

出前こう座で浄化センターの方々から学んだことは、下水道に流れ、川や海に流れるのだと思っていました。川や海に流れるとちゅうで下水処理場という場所があるということです。

下水処理場のしくみでおどろいたことは、けんびきょうでしか見えない微生物が、肉眼で見える水の汚れを浄化するということです。その順番は、まず、沈砂池で大きなゴミや土砂を取りのぞきます。次に最初沈でん池で汚水をゆるやかに流して、細かいゴミやどろを沈めて取りのぞきます。さらに、反応タンクでは汚水に微生物の入れた活せい汚でいをませ、微生物が水の汚れを食べ、重くなり沈むのです。最後の最終沈でん池では分かいし、沈みやすくなつた有機物を沈め、処理した水と汚でいに分けるのです。最後にその水を消毒し、水しつけんさでその水を川や海に流してよいかはんだんするそうです。

数十年前、日本の人口がふえ、工場やたくさん家から汚れた水がたくさん流されていました。その時は下水道の整備が十分ではなかった。一部の川では魚が住めないほど汚れ、いやなおいがしています。各地域で下水処理場が少しずつ整備され、今、私たちが住んでいる町の川や海はたくさん魚が住んでいるほどきれいになっています。

そのきれいな川や海を守るために、私たちがしなければいけないことはたくさんあると思います。例えば、台所の流しに残飯や油をその

まま流したりしないことです。油は固めてすてたり、残飯は畑にうめて肥料にしたりします。米のとき汁は庭のじゅ木やプランタにあたえます。汚れた食器をそのまま大量の水で洗ったりせず、汚れをキッチンペーパーやへらなどでとりのぞいてから洗います。また、トイレでは、トイレットペーパー以外流さないなど、それぞれの家庭で使った水を出来る限り汚さないようにすることが大切です。

私たち一人一人が毎日の生活の中で少しずつ努力すると、よりきれいな水を守ることに結び付くのだと思いました。